

【授業の到達目標および概要】

保健（ヘルス）とは本来、病気を治療・予防することのみならず、健康に生活することのすべてであると考えられています。したがって様々な分野で保健事業は行われており、その保健事業を学ぶことにより、より実践的な保健学を学ぶことを目的としています。

医療機関・健康保険組合・地方自治体・企業・教育機関等で行われている保健活動を参考により具体的かつ実践的な保健学を学んでいきます。調査・問題把握・計画・提示・調整・予算化・再調査・宣伝広告・実施・会計・報告・事後調査等のながれを理解し、自分で考える力をつけます。また特定健診・特定保健事業や、最近重要度が増しているメンタルヘルスやストレスチェック等も取り上げていきます。他にも医療機関や健康保険組合や企業でも取り入れているサプリメント・漢方・アロマセラピー・マッサージ・運動療法・音楽療法などの民間保健活動についても考察していきます。最近では人工知能の医療・保健分野での応用、リビングラボ等の新しい形の保健学についても講義して行きます。最終的に自ら保健計画を立てられるようになることを目標にしています。

【授業計画】

- ① イントロダクション
- ② 総論：保健学入門
- ③ 各論（成人保健：医療機関の取り組み、健康診断、医療、保健指導）
- ④ 各論（成人保健：企業（産業衛生的）の取り組み、衛生委員会、産業保健）
- ⑤ 各論（成人保健：企業（福利厚生的）の取り組み、健康イベント、宿泊、スポーツジム）
- ⑥ 各論（成人保健：健康保険組合・教育機関、社会保険制度、組合活動）
- ⑦ 各論（高齢者保健、在宅医療、地域医療）
- ⑧ 各論（その他の保健事業：相補・代替医療等について）
- ⑨ 総論：保健事業を構築するための基礎知識（法律・条令・通達等）
- ⑩ 実習：保健現場見学① 工場、病院、診療所、等
- ⑪ 実習：保健現場見学② 工場、病院、診療所、等
- ⑫ 実習：保健現場見学③ 工場、病院、診療所、等
- ⑬ 実習：保健現場見学④ 工場、病院、診療所、等
- ⑭ まとめ、研究発表

【授業外学習】

現場体験は貴重な経験となります。事前の授業で指定された資料を200分程度で調べておくこと。工場見学や健康診断の現場、また診療所や病院の見学等を予定しております。相手側の都合により、希望する実習が行えず、他の実習に変更する場合があります。

【成績評価の方法・基準】

本講座は体験や実習を重視しています。試験は3回（口頭または筆記による）行い習熟度をチェックいたします（やむを得ず出席できない場合は、理由によりレポート提出も可）。成績評価の基準は自分で保健計画を立案できる程度の基礎知識です。

【教科書】

特に指定するものではありません。資料はこちらで用意します。

【参考書】【参考文献】【資料】

授業の際に指示もしくは配布いたします。その他、個人で興味がある場合は厚生労働省関連書籍、労働衛生、介護保険、健康保険等、自分に興味があるものを参考にしてください。

【教材】

筆記具及びノートは必携。自宅等でインターネットに接続できる環境の方が好ましい。

【備考】

習熟度により授業の進行具合が変わる場合があります。